

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470300161		
法人名	有限会社 サンテック		
事業所名	小松崎あさひ園		
所在地 (電話番号)	塩釜市小松崎4番45号 (電話) 022-367-7509		
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成19年7月18日		

【情報提供票より】(19年6月20日事業所記入)

開設年月日	平成12年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤	人, 非常勤 人, 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / ○ 単独	○ 新築 / 改築
建物構造	木造 造り	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~38,000 円	その他の経費(月額)	20,000~25,000 円
敷金	有(円) ○ 無	有りの場合	有 / 無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	塩釜市立病院・宮町脳神経内科クリニック・ササキ歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣2市3町の、地域におけるグループホームのパイオニアとして、平成12年11月に開設された2ユニットのホームである。入居者の大半は地域の方であり、家族の面会の頻度も高く、ホームも家族との関係作りに力を入れている。2006年からの地域密着型サービス対応についても、「理念」の見直しをリーダーを核として職員全体での取り組みが進行中である。又、新たな展開として、塩釜市が公募した2ユニットでの新設グループホームにも応募し、指名も済んでおり着々と開設に向けて準備が進められている。今回の訪問調査に際し、若い職員の入居者に対する思いが具体的に聞かれ、入居者からは「ありがとう」の声が絶えない優しく明るい雰囲気な満ちたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム便りを現在まで2回発行し、ホーム内へ掲示、家族、地域の皆さんにも配布し関係機関の窓口にも置いてもらうなど、ホームへの理解と啓発に取り組んでいる。又、入居者本位のケアプランを作り上げるため、全体会議を月に1回定期的に開催し、担当職員の意見をベースにチーム全体で入居者、家族の希望、意見に添ったプラン作成を検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今年初めてリーダーを中心に全員で自己評価に取り組んでいる。管理者は「ホームの課題探しに行き詰まった時は、先ず外部評価を参考にするように」と職員に話しており、評価を前向きにとらえ、ホームの質の向上を目指し、適切な活用に努力している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者とその家族、市関係者、地域住民代表、有識者を構成メンバーに依頼し、2か月に1度定期的に開催し、報告、相談、検討など実績を積みつつある。7月末の会議では今回の外部評価について結果を報告し以後の取り組みについて提案したいと話された。主な成果として入居者の身体能力低下に配慮して滞りがちであった家族旅行について家族からの要望が出され、早期に計画を進めることになったなどがある。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の大半は地域の方々であり、家族の面会の頻度は高い。管理者、職員は家族とのコミュニケーションを大切にし、意見、希望の聞き取りに熱意をもって取り組んでいる。運営推進会議での家族の発言は活発で、この場を活用し、行政側から家族の疑問に答えてもらったり、助言をいただく場としている。ホームではこの1年職員の離職がみられ、家族の不安がアンケートからも感じとれるがホームの事情、対応を説明するなどして理解につなげたいとしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開所7年目であり、認知症ケアのリーダーとして地域に認知されており、独自に計画している口腔ケアの講習会などを地域住民にも呼びかけている。災害時を想定して近所の方達と一緒に避難訓練や消火訓練を入居者も一緒に実施している。地元の老人会の方々ボランティアではじめてカラオケを披露してくれることになっており、入居者、職員は楽しみにしている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は平成17年に見直し現在に至っている。「その人らしさを」「見守りの心を」「友に笑顔で」「ゆとりのある心でチームケアを大切に」と分かりやすく、ホーム内随所に掲示している。しかし入居者の入院などによる複数の退去や、職員の自己理由による離職など変化もあり、地域密着サービスとして理念を見直している。	○	ホームの運営方針として運営規定の中に「地域住民との連携、協力、交流に努める」と明文化してあるが、今後は理念としてホーム内外への姿勢の表明に一工夫していただきたい。尚、現在研修中の職員を中心として全員で新しい理念作りに取り組まれており、おおいに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングや会議の場で理念の唱和と話し合いを行っている。理念に添った日々のケアを常に念頭におき、立場を自分に置き換えて支援していることは、職員とのヒヤリングでも感じとれた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所7年目となり地域の皆さんからは「認知症ケアはあさひ園」としてよく認知されている。歯科医の講習会などホームで計画した行事への参加にも声掛けし、避難訓練、防火訓練なども一緒に行っている。行事での参加もさることながら、近所への散歩の途中で招かれていただくお茶を入居者はとても喜んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットのリーダーが中心となり、今回初めて全員で自己評価に取り組んだ。管理者、職員は評価の意義と必要性を理解し、結果を日常のケアに活かし、質の向上への手がかりとして活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者とその家族、市関係者、地域代表、地域の知見者、で構成され、昨年2回、今年2回開催している。今月末の会議では、外部評価後の報告、以後の取り組みについて議題提供し意見などいただくことにしている。主な成果として、入居者の身体能力等の低下を配慮して滞りがちであった家族との日帰り旅行について、家族からの要望が出され早期に取り組むこととしたなどがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連絡、連携は良く保たれ地域ケア会議など交流の機会が多い。事業受け入れについては機会があれば取り組みたいとしているし、一般市民からの相談は常にあるので、情報を提供し行政への橋渡しもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者家族の面会は1週間に1度から2か月に1度位と様々であるが、来訪された時はゆっくりと時間をかけ話を聞いたりくつろいでもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は家族とのコミュニケーションを大切にし、会議の場や面会の機会に意見、希望の聞き取りに努力し、相談、苦情の利用についても繰り返しお話している。しかし前回評価時の要改善事項である行政、国保連、第三者委員等の窓口の明示についてまだなされていない。	○	現在相談、苦情申し出の窓口の表記はホーム管理者のみとなっており、利用者、ならびにその家族のホームに対する心理、感情を十分に配慮し、行政、国保連、地域の第三者への電話番号を付しての併記が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を取り巻く家庭環境や状況の変化により、この1年かつてない離職者等異動があり、家族の不安が推測される。	○	職員の異動による入居者への影響については対応されていて、7月末の運営推進会議で提起し話し合い、理解を得たいとしているので期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があればその都度周知し参加希望を聞き、指名するなど、可能な限り受講の機会を促し、受講者はその後ミーティングや会議の場で内容を報告し、全員で共有している。県のグループホーム連絡協議会に加入しており研修の機会が多い。又、個人の資格取得への支援、取得後の手当て支給などにも配慮し、職員はレベルアップ、ステップアップに熱意をもって取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域でのケア会議、ケアマネ会議など交流の機会があり、ケースによって相談しあったり、経験を伝え合ったりしている。グループホーム連絡協での年2回のケアプラン作成に係る講習会への参加など、ホームの質の向上に向け努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの入居に際しては、事前にスタッフが自宅を訪問し馴染みの関係を持ちながら、10日から20日間位遊びに来てもらうなど、徐々に馴れ親しんでもらっている。ホームでの生活、雰囲気を家族にも一緒に感じてもらい、家族の不安にも配慮し納得の上入居に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を「人生の先輩」として敬い、経験や生活の知恵を教えてもらうなど支えあって共に過ごしている。症状も少しずつ進み、身体能力も低下していくなかで、喜び、不安、おそれの思いを共有し負担のない関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	はっきりと自分の希望、意思を伝えてくれる入居者は余り多くない。普段の何気ない会話の中から、表情から思いを感じ取りながら理解し支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のケア担当職員が関わりの中で、身体状況、生活の様子をみながら提言し、全体会議では他の職員の助言も得ながら、ケアマネージャーがまとめて作りあげている。本人、家族からの意見は余り表明されず、新任のケアマネは苦慮しているが、それでも機会あるごとに聞き出しに工夫し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア担当職員は入居者の状態の変化に配慮しながら、日常的にモニタリングし、家族へも定期的に意見の問い掛けを行っている。3か月に1度、また変化がみられた時、評価をし次にそれらを活かしているが、期間が長すぎ、十分な見直しはされていないケースもあり不十分である。	○	新任のケアマネージャーが、現在、全入居者のケアプランについて見直しを行っている途中である。本人、家族の意見、希望の取り入れの重要性は管理者はじめ、全職員が認識しているので入居者にとって今必要なケアプランの作成に努力していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊、外出について入居者家族に声掛けし、任意の外泊への支援は惜しまないと話している。直ぐ近くに併設の認知症専用の通所介護施設があり交流もある。受診時での対応についても柔軟に対処している。現在満床であり、ショートステイへの支援は将来への課題として検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医など受診については本人、家族と話し合いその希望に添って支援している。家族同行の受診の際にもその後ホームでのケアに配慮し、一緒に医師の診断、処置の場に立ち合わせてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けた方針、体制作りについて、本人、家族との話し合いも含め緒についたばかりである。意向の聴取、連携、医師、職員の体制作りにも早期に取り組む姿勢はみられる。	○	98歳の入居者もおり、入居年数も長くなっていることから取り組みについて真剣な姿勢がうかがえる。運営推進会議での意見、助言もいただきながらまずはホームの取り組みの姿勢の表明、本人、家族の希望の聞き取りに努めていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「人生の先輩として敬意と尊敬の念を心におきながら、不快と感じるケアをしないよう接している」と話してくれた新入社員。入居者への声掛けは穏やかであり、トイレへの誘導、身だしなみへの支援時もさりげなく行っている。個人情報保護法の理解に努め、その保持について契約書に記載しているがホーム内への表示がされていない。	○	家族にとって入居者本人及び周辺家族のプライバシーが保たれているかなどは大きな関心事であろう。実際面での対応のみならず、ホームとしてプライバシー保護についての掲示もして安心感につなげていただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、買い物など本人のペースでの個別支援がなされている。積極的に自分から希望、意見を表明することは余りないようだが、思いをくみとりながら根気強く聞き取り支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は地元から入居者と一緒に買い物し、調理の手伝い、配膳、後片付け、食器洗いなど職員と一緒にしている。直ぐに箸の止まる方、隣の皿に手をいれる方など気の抜けない場面も見られるが、一段とトーンを落とし気持ちを落ち着かせながら、必要な方への支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常2日に1度の入浴支援を行い、入浴者の名前を浴室前に貼り出している。希望や受診等にも配慮し毎日の入浴にも応じている。体力や症状の低下などで一人での入浴が少なくなってきたが、今後体制を組み夕食後の入浴支援も行いたいとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞、牛乳を取り入れてくれる人、台所仕事、洗濯物の干し方、取り入れたたみなど一人ひとりに自然と役割が決まり自発的に行っている。皆で一緒に行動する事はしにくくなっており、ラジオ体操などである。しかしダンス教室参加への支援など一人ひとりへの楽しみ、気晴らしには充分対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出掛ける人、買物に出掛ける人、通院で出掛ける人と外出機会は色々である。高台に立地しており、車いすの利用者は気軽に掛ける環境にはないが、天気の良い日は見晴らしの良いベランダで過ごしてもらうなど支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けず自由に入出入りできる環境を当たり前のこととして受けとめ、開園当初から鍵は全くかけていない。チャイムを付けて不意の出入りに対応した時期もあったようだが、現在は取り外し、夕方になると落ち着かなくなる人など一人ひとりの傾向を察知し見守りと近隣へのお願いで対処している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回マニュアルに従って避難訓練を行い、避難終了に要する時間、声掛け順序、誘導の支援について体験し、入居者による消火作業も体験した。防災協会からの情報もいただき、防火管理者として研修への参加も行なっている。災害時の備蓄については準備すると話されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事、水分量の把握を昼間、夜間に分けて日誌に記録し、月に2回体重測定を行なっている。身体状況による医師からの制限事項も十分に配慮し、食事の好き嫌いにも応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からリビングへ真っ直ぐに続いている広い廊下は、外からの採光と換気が取りこみやすく、臭気、空気のよどみはない。一隅に置かれているテーブル、椅子はセミパブリックスペースとして入居者に好評である。調度、家具も家庭的な品で居心地よく配置され、季節から七夕飾りもあり、入居者の願いを込めた短冊も吊るしてあった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の理解を得ながら自宅で使い慣れた筆筒、衣類ケース等を持ち込んで落ち着いて生活している。		